

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成30年1月29日 VOL. 51

平成29年度 認知症初期集中支援チーム検討委員会開催

平成30年1月23日(火) 大会議室において、チーム員による研修会及び状況共有・意見交換会を開催しました。



研修会は(医)峻凌会 やきつべの径診療所の夏苺直己院長を講師にお招きし、**連携型認知症疾患医療センターの役割**を学びました。認知症疾患医療センターは、都道府県または指定都市が実施主体で、「基幹型」「地域型」「連携型」があり、志太榛原圏域は**焼津市立総合病院が「地域型」、やきつべの径診療所が「連携型」に県指定**されています。夏苺先生から圏域内の7施設(画像診断・身体合併症・BPSD対応等)と連携していること、さらに①外来診療 ②総合評価と療養計画作成のほか、付帯業務としての ③認知症初期集中支援チームの補佐について説明がありました。

行政・医師会の枠組みを取り払い「志太はひとつ」で、多職種・多機関連携で認知症の人と家族を支援する体制について方向性が示されました。

認知症初期集中支援チームは、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する事を目的に、市が実施主体となり、平成28年1月に市内7カ所の安心すこやかセンターに設置しました。**チーム員はあんすこの医療系専門職と福祉系専門職の2名に、志太医師会認知症サポート医等8名の医師で構成**しており、この日は27名のチーム員が集まり3ケースの事例検討を行いました。事例は ①かかりつけ医がいる場合の、チーム員とかかりつけ医の連携方法 ②かかりつけ医がいない場合の、ケース終結後の往診も含めた医師の関わり ③効率の良いチーム員会議に向けて、記録書式や時間の持ち方の改善 等。今後、意見を集約して、マニュアルの見直しやチームの平準化を行っていきます。



認知症ミニ知識

BPSD（行動・心理症状）とは？

認知症により生じてくる記憶障害などの症状がもとになり、**本人の性格や素質、周囲の環境や人間関係などが影響して出現してくる症状**のことです。例えば、自信を失い、引っ込み思案になること、身の回りの動作に支障が出てくること、もの盗られ妄想、徘徊等の行動障害などの症状です。

BPSDを軽減するには？

周辺症状は、**認知症になったからと言って必ず出る症状ではなく、環境や周囲の方の関わり方によって軽減できる**ものです。病気が理解できる時点で早期に受診し、少しずつ理解を深めていけば、生活上の障害を軽減しトラブルを減らすことも可能です。また、周囲の認知症への理解と優しい見守りも大切です。

認知症サポーター養成講座

藤枝市には、認知症の正しい理解普及啓発のために活動しているキャラバンメイトがいます。キャラバンメイトが行う認知症サポーター養成講座を受けて、あなたも認知症の人を優しく見守る「認知症サポーター」になりませんか？
認知症サポーター養成講座に興味がある方は、下記までご連絡ください。